

海外安全対策情報（平成28年7月～9月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2016年1月～9月（2016年11月8日時点での最新情報）のベラルーシにおける犯罪総数は71,052件で、昨年同時期と比較し2.3%減少しています。未成年者による麻薬犯罪が増加しているとの報道もありますので注意してください。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	28,223 件（前年比 6.9%減）
（うち住宅対象侵入窃盗）	7,657 件（同 6.1%減）
イ 公然窃盗	1479 件（同 10.6%減）
ウ 恐喝	85 件（同 27.4%減）
エ 詐欺	3,623 件（同 27.1%増）
オ フーリガン犯罪	2,974 件（同 5.3%増）
カ 殺人及び殺人未遂	319 件（同増減なし）
キ 重傷傷害	591 件（同 9.5%減）
ク 強盗	173 件（同 22.4%減）
ケ 強姦及び強姦未遂	104 件（同 3.7%減）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2016年7月～9月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 7月26日、ミンスク空港にて ISIL の戦闘員と思われるロシア国籍の男が勾留された。犯人は、モスクワから車でベラルーシに入国し、ミンスクからイスタンブールへ出発しようとしていた。イスタンブールからはシリアへ移動する予定であった。なお、この事件に関して、当地内務省職員は「このようなケースは初めてではなく、ISIL 関係者にとってロシアからトルコへ出国する際に問題が生じるため、ミンスクから飛行機に乗ろうとする傾向がある。(当館注：ロシアとベラルーシの間に出入国審査がないため)」と発言をした。

イ 8月9日、悪徳不動産業者3名が、6名を殺害及び遺棄した罪で勾留された。被害者は

不動産物件を保持しており、悪徳不動産業者は不当にその物件を得るために殺害に及んだ。捜査の結果、何体かの遺体はモギリョフ市近辺の墓地から発見された。

ウ 8月17日、2人のタクシー運転手が強盗及び窃盗の罪で勾留された。容疑者はインターネットサイトで売春婦である被害者と連絡を取り、被害者の家に覆面と手袋を着用の上、押し入った。ナイフで被害者を脅迫し、金銭と金目のものを奪い逃走した。捜査の結果、犯人らはタクシーの乗客からも窃盗を働いていた余罪が判明した。

エ 9月6日、ミンスク市地下鉄「レーニン広場」駅にて、大学生の手荷物から銃弾が発見された。容疑者は勾留され、事件は捜査中である。

3 テロ・爆弾事件の発生状況
なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況
なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題
なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道を確認する等し、自身の安全確保に努めてください。